

2025～2029 年度中期目標・計画書

学校法人新潟青陵学園

目 次

I. 2025～2029 年度中期目標・計画の概要……………	1
II. 建学の精神、ミッション・ビジョン、長期目標、長期戦略……………	1
III. 設置する学校・学部・学科等……………	3
IV. 学園及び設置学校の 2025～2029 年度中期目標・計画 ……………	4
i. 学園	
ii. 新潟青陵大学	
iii. 新潟青陵大学短期大学部	
iv. 新潟青陵高等学校	
v. 新潟青陵こども園	

I. 2025～2029 年度中期目標・計画の概要

新潟青陵学園は、2023 年 5 月に、建学の精神を起点にした本学園の基本姿勢を示す「青陵ミッション」と学園の 2040 年のあるべき姿・目指す姿を描いた「青陵将来ビジョン」を策定した。続いて、「青陵将来ビジョン」達成のために、2025 年から 2039 年まで 3 期にわたる 5 か年ごとの中期目標・計画を策定することとした。本中期目標・計画は、その第 1 期となる、2025～2029 年度の目標・計画である。2025 年度以降の事業計画は、この 2025～2029 年度中期目標・計画のアクションプランをさらに具体化し、実行性を高めることを主眼に置いて策定していく。

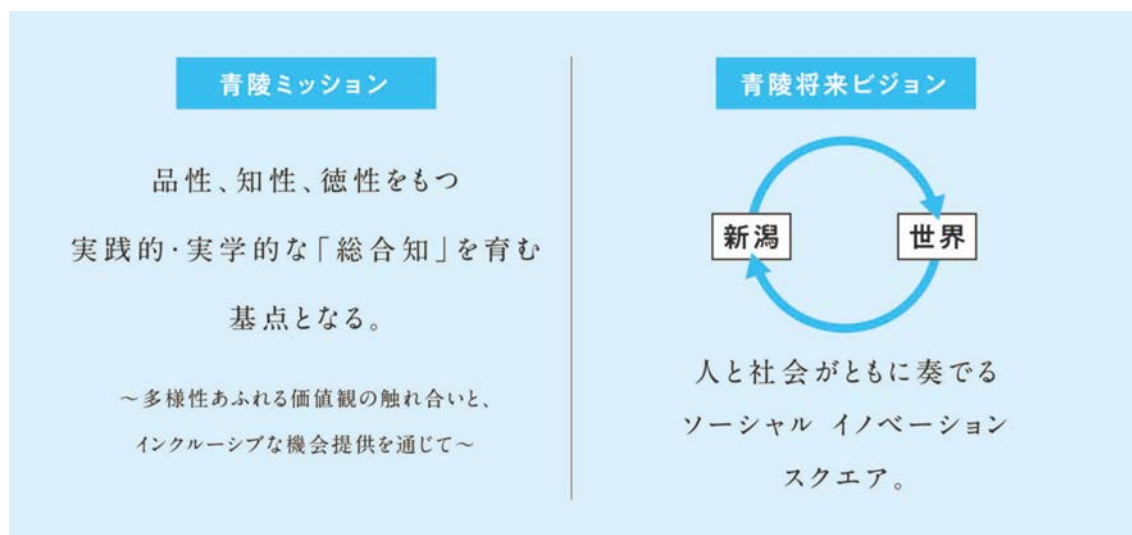


II. 建学の精神、ミッション・ビジョン、長期目標、長期戦略

■建学の精神

日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授する。

■ミッション・ビジョン



学園で学ぶ学生、生徒、園児等を第一に考え、高い満足度をもって学生生活を送ることができるよう、教育・研究を充実させるとともに、社会連携を強化し、地域社会に貢献することで学園の社会的評価を高めていくことで将来ビジョンを実現し、もって持続的な学園経営を図ることを目的とし、以下の長期目標及び長期戦略を設定した。

■長期目標

経 営 (組織・人事・財務・事業ポートフォリオ)	「戦略に基づいた成長投資」「経営基盤安定化のための財務規律堅持」の両立 i. 経営のスピードアップを目的としたガバナンス改革、それを支える組織・人事改革 ii. 高校、短大にオンラインを活用した通信制課程を設置。大学についても検討を開始。
研 究	日本におけるソーシャルイノベーション研究の拠点となる i. ソーシャルイノベーションに関する研究業績数を日本トップクラスに ii. 学園内及び学外（産官学）との連携拠点の構築 iii. 研究・教育・実践の相互関連性を高める組織体制を構築
教 育 (人材育成)	SEIRYO スタンドアードの実現 i. こども園・高校・短大・大学がそれぞれの資源を生かしながらしームレスに繋がる教育プログラムを提供 ii. 企業・地方公共団体・大学等の外部団体や個人と連携した教育プログラムを提供 iii. オンラインを活用しエリアと年齢を超えた教育を提供（小中サポート・生涯学習・リスクリソグ・等） iv. 園児・生徒・学生の全員が何らかの形で異文化交流を体験
実 践 (社会貢献)	ソーシャルサービス、社会連携の強化 i. 産官学と連携するソーシャルイノベーションセンターを設置 ii. 地域課題解決に資する NPO 法人設立・起業支援・連携プログラム策定
キャンパス 施設設備	ハイブリッド教育及びダイバーシティー&インクルーシブキャンパスの実現 i. 様々な年代がしームレスに学び合えるキャンパスへ ii. メタバースを活用した教育を行うメタバースキャンパスの設置 iii. オンライン教育を前提とし、それを発展・補完する対面交流の場 iv. 多様な人々が集い異結合による新たな価値が創造される場

■長期戦略

- ・学校運営から戦略的学園経営へのシフト
- ・デジタルを活用した経営、研究、教育の改革（DX）
- ・オンラインを活用し対象年齢及びエリアのセグメント拡大
- ・青陵独自の研究、社会貢献、教育プログラムの開発

Ⅲ. 設置する学校・学部・学科等

(2025 年 4 月 1 日現在)

設置する学校	開校年月	学部・学科等	収容定員
新潟青陵大学	2000 年 4 月	大学院 看護学研究科 (2014 年 4 月) 臨床心理学研究科 (2006 年 4 月)	32
		看護学部 看護学科 (2015 年 4 月) 福祉心理子ども学部 (2023 年 4 月) 社会福祉学科 (2015 年 4 月) 臨床心理学科 (2015 年 4 月) 子ども発達学科 (2023 年 4 月)	940
新潟青陵大学短期大学部	1965 年 4 月	人間総合学科 (2004 年 4 月) 幼児教育学科 (1968 年 4 月)	660
新潟青陵高等学校	1948 年 4 月	全日制 (普通科) (1960 年 4 月)	1,080
新潟青陵こども園	1967 年 4 月	幼稚園型認定こども園 (2020 年 4 月)	115 (利用定員)

IV. 学園及び設置学校の 2025～2029 年度中期目標・計画

i. 学園

■事業ポートフォリオ

中期目標	■2029 年度 大学：在籍者数 972 人 資金収支バランス（＋） 短大：在籍者数 860 人 資金収支バランス（＋） 高校：在籍者数 1,460 人 資金収支バランス（＋） こども園：在籍者数 100 人 資金収支バランス（＋）
目標の具体的な内容	・通信教育（制）課程開設を中心として、従来本学園各校種に入学してきたセグメント以外からの入学者確保を可能とする。 ・通信教育（制）課程開設に伴うオンライン学習プラットフォームを活用し、教育制度外の受講者収入を増やす。
重点施策	大 学：2030 年度通信教育課程開設に向けた準備室の設置及び申請 短 大：2026 年度通信教育課程開設 高 校：2026 年度通信制課程開設 こども園：2025 年度幼稚園教育と保育の一体化（大学短期大学部学生食堂を給食施設とする） その他①：通信教育（制）課程設置に際し、リソース・ノウハウを共有し、可能な限り効率化を図る。 その他②：内部進学（高校→短大、高校→大学、短大→大学、大学→大学院）の強化。 その他③：学園全体で SI 推進に取り組むための体制整備 その他④：2029 年既存学部学科（校種）を横断したソーシャル・イノベーション（SI）研究科の設置 その他⑤：青陵アルムナイの拡大 その他⑥：国際交流・留学生受入れの拡大
アクションプラン	1 年度ごとの在籍者&資金収支バランス目標設定 2 通信教育（制）課程の各種体制の整備 3 内部進学強化に繋がるカリキュラム・支援体制等の整備 4 SI 推進機構の新設及び体制整備 5 SI 研究科の検討・設置認可申請の体制整備 6 青陵アルムナイの組織化 7 国際交流及び留学生受入れのための体制整備

■人事制度改革

中期目標	長期戦略を実践するための人材戦略の策定及び実践
目標の具体的な内容	・将来ビジョン実現のため、長期戦略の実践に必要な人材戦略を策定し、人材戦略で規定された人材像に報いるための人事制度に改定することで、職員の行動変容を促す。 ・改定した新人事制度を運用しつつ、人事制度の改定・運用のノウハウを蓄積する。 ・期中に長期戦略の修正が発生した際はその都度、人材戦略や人事制度の見直しを行う。
重点施策	1 人材戦略の現状分析（人材像、採用、配置・異動、育成、評価、報酬、代謝） 2 人材戦略の策定 3 人材戦略に沿った人事制度への改定（等級制度、評価制度、報酬制度） 4 改定した人事制度の運用 5 人材戦略に沿った要員計画の作成、遂行 6 人材戦略に沿った研修体系の構築、実施
アクションプラン	1 既存業務効率化、人材データ活用のためシステム導入（2025 年度） 2 現状分析の実施（2025 年度前期） 3 人材戦略の策定（2025 年度後期） 4 人材戦略に沿った等級制度の改定案の作成（2026 年度） 5 人材戦略に沿った評価制度の改定案の作成（2026 年度） 6 人材戦略に沿った報酬制度の改定案の作成（2026 年度） 7 人材戦略に沿った要員計画の作成（2026 年度） 8 人材戦略に沿った研修体系の構築（2026 年度） 9 人事制度の改定、要員計画の遂行、研修の実施（2027 年度～） 10 新人事制度に沿った昇降格の実施、報酬支給（2028 年度～）

■学園ファイナンス機能強化

中期目標	2030 年からの対前年 2 億円以上増の維持継続を実現する財務戦略の基盤構築。
目標の具体的な内容	中長期修繕計画を立案し、各校種の収支見込予測から学生生徒納付金で不足する金額を推計。その不足分を補うための方策を検討する。具体的には、寄付・資産運用での増収を目指す。
重点施策	1 管財資源の校種別比較の数値化及び中長期修繕計画の立案。 2 校種別収支（資金収支）見込みの作成。 3 寄付金募集方策の検討。 4 資産運用の検討。
アクションプラン	1 管財資源の校種別比較の数値化及び中長期修繕計画策定 2 校種別収支（資金収支）見込み策定 3 寄付募集目的・目標額・受付期間等の設定、規定整備 4 寄付募集のプラットフォーム作成 5 資産運用目的・期待リターン・運用期間等の設定、規定整備 6 資産運用の基本ポートフォリオ策定

ii. 新潟青陵大学

■研 究

中期目標	研究力の向上に向けた、研究支援機能の強化
目標の具体的な内容	・研究に対する組織的な取り組みを推進し、個々の教員の研究力と外部資金獲得力の向上をはかる。 ・教員の専門性や取り組もうとする地域課題や社会課題をわかりやすく発信し、地域との協働を促進する。地域の暮らしと研究との循環的な質向上を目指す。
重点施策	1 研究に対する組織的な取り組みと評価 2 研究者が安心して研究に取り組める体制の整備 3 学園の研究支援室と連携した研究支援機能の強化
アクションプラン	1 学内研究助成金制度の拡充 2 researchmap の登録情報や研究業績書の定期的更新 3 地域課題解決につながる研究シーズ集の作成 4 教員 FD ポートフォリオ等を活用した評価 5 サバティカル制度の定着に向けた意識の醸成 6 学会の年次大会開催に向けての支援体制の構築 7 学内の科研費データベースの構築 8 機関リポジトリの拡充

■教 育

中期目標	【高大接続と学生確保】 育てる入試と教育の連続性の重視 【教育の質向上】 学修成果可視化の強化と多様な教育の提供 【学生支援】 学生の成長と自立を促すための支援・学生参画による活動の強化
目標の具体的な内容	【高大接続と学生確保】 ・高大連携を一層強化し、本学の専門領域に対する中高校生の関心を高め、校風や教育についても丁寧に伝達する。留学生や社会人（職業人）など多様な背景を持つ潜在的志願者層に対して本学の魅力を積極的にアピールする。 ・高大接続の概念を拡大し、多様な背景をもつ志願者・入学者を視野に入れた教育の連続性を確立する。 【教育の質向上】 学生自身が自己の学習状況・学修成果を目標との関係性において把握できるようにすることで、課題意識を持ちながら日々学び、それを実力として積み重ねる姿勢を育成する。それを支え応えられるような教育を行う。

	【学生支援】 学生が充実した大学生活を送ることができるよう、学生参画による活動の強化と環境を整える支援を行い学生の成長と自立を促す。また、学生の多様な背景に応じた個別支援を充実させるとともに、多面的に学生を支える学内の連携体制の再構成を図る。
重点施策	【高大接続と学生確保】 1 多様な潜在的志願者層に対する本学の魅力の伝達 2 多様な志願者に対応する入学者選抜体制の構築及び選抜方法に関する検証と改善 3 多様な入学者を見据えた教育の連続性の確立 【教育の質向上】 1 学修成果可視化のさらなる推進と教育課程の点検・評価 2 自己教育力／SEIRYO コンピテンシーの養成 3 多様化する学生に対応したカリキュラム・教育方略の検討 【学生支援】 1 学生の成長に合わせた支援 2 学生主導の活動の推進支援 3 学生の多様な背景に合わせた支援と連携体制の再構成
アクションプラン	1 新潟県内進学校との連携強化 2 中学高校生向け講座の拡充 3 学生確保につながる出張授業の検討 4 連携協定校拡充と提案できるコンテンツの準備 5 社会人（職業人）への広報の見直し 6 一般選抜・共通テスト利用の併願システムの構築 7 総合型選抜の他学科併願システムの構築 8 全学部全学科での留学生選抜の検討 9 留学生選抜の方法や実施時期の検討 10 社会人選抜（編入学を含む）の検討 11 学修プロセスの見える化のための学修ポートフォリオの検討 12 達成状況の評価とフィードバック方法の確立（GPS-A の学生フィードバック含む） 13 多様な教育方法の試行的実施と結果検証及びノウハウの共有・蓄積 14 多様な教育方法に対応するための各種 FD・SD 研修会の実施 15 多様な学生に対応するための学生参画 FD の企画 16 グッドレクチャー賞・ベストティーチャー賞創設の検討 17 オリエンテーションキャンプ及びリーダーを育てる研修の実施 18 デジタルを活用した、個別の進路支援の実施（キャリアに関する情報提供体制の整備、オンラインでの書類添削や面談練習など） 19 学生支援部門と関係者による連携会議の定期開催（半期に1回） 20 学生の心身の健康にかかわる危機管理体制の検討、各部署の危機管理マニュアルの確認 21 アドバイザー制度の見直し

■地域貢献・社会連携

中期目標	【社会貢献・地域連携（地域社会とのつながり）】 実学の循環による地域とのつながりの強化と地域における問題課題への対応 【グローバル化対応（世界とのつながり）】 体験を通じた異文化の理解と信頼関係の構築
目標の具体的な内容	【社会貢献・地域連携（地域社会とのつながり）】 地域の人々や専門家との対話を通して地域課題を見据え、本学の「実学」教育・研究の成果に基づいた効果的な貢献や連携を進める。地域とのつながりの中で行われる活動において、本学の「実学」の検証をするとともに、新たな課題を見出し、地域社会と連携しながら議論や考察を深め、共に解決策を探る。 【グローバル化対応（世界とのつながり）】 海外留学や海外研修を通じた体験や、本学への留学生等や地域に暮らす外国人との国際交流を通して、学生・教職員ともに多様な背景を持つ人々と信頼関係を築き、議論し助け合いながら世界の問題・課題の解決を試みる。
重点施策	【社会貢献・地域連携（地域社会とのつながり）】 1 地域への学習機会提供 2 地域との連携事業推進 3 コミュニティサービスラーニングの推進 【グローバル化対応（世界とのつながり）】 1 海外留学・海外研修の支援 2 留学生とギャップイヤー・ボランティアの受入れ 3 国際交流事業開催の常態化と海外提携校の新規開拓
アクションプラン	1 公開講座・生涯学習講座 2 特別受講生制度 3 リカレント教育 4 新潟日報社連携事業（にいがた鮭プロジェクト、学生制作フリーペーパー事業） 5 行政機関、社会貢献企業、学会との共同プログラムの推進 6 学生に向けたボランティア情報の提供と活動サポート 7 ボランティア活動プログラムの開発と提供、ボランティア関連科目との連携プログラムの開催 8 災害支援に繋がる持続可能な防災学習の開催 9 コミュニティサービスラーニング推進プラットフォームとしての「コミュニティ・カフェ」開設 10 海外留学の支援 11 留学生受入れ促進 12 海外からのギャップイヤー・ボランティアの受入れ 13 国際ボランティアへの参加 14 学内外での国際交流行事の開催・紹介・参加奨励 15 国際交流を目的とした海外協定校の新規開拓

■将来計画と経営

中期目標	学園の将来ビジョンに呼応した将来計画と IR データを活用したデータドリブンな提案・意思決定
目標の具体的な内容	学園の将来ビジョンに呼応させながら、持続可能な大学経営のための将来計画を検討する。その際に、IR データの共有と活用を促進し、データドリブンな提案・意思決定ができるようにするとともに、積極的な AI の利活用を進める。また、教職員及び学生の安全・安心を保障し、労働意欲と学修意欲を高める。学生や卒業生の意見を大学の経営と将来計画に生かす。
重点施策	- I 持続可能な大学経営のための将来計画 - I IR データに基づくエビデンスベースの意思決定の強化 - I AI 技術を活用した教育・研究・管理業務の効率化 - I 卒業生との連携の再構築
アクションプラン	1 通信制導入の基本構想・年次計画策定 2 社会人向け教育プログラム提供の検討 3 専門領域としての介護人材養成の拠点化 4 IR データの共有徹底と活用促進のための基盤整備 5 IR データの分析と活用研修 6 人件費比率の適正管理（人件費軽減目標値と年次計画の設定） 7 教育・研究における AI 技術活用事例研修 8 管理業務の効率化のための AI 技術研修 9 卒業生名簿の管理体制の構築

iii. 新潟青陵大学短期大学部

■研 究

中期目標	青陵スタンダード教育を可能にする研究成果の蓄積
目標の具体的な内容	各教員の研究分野における研究の蓄積を積み重ね、教育の質的向上を図る。
重点施策	1 学内での研究会の実施 2 研究業績の公刊 3 学会活動の報告会の実施 4 競争的外部資金への応募
アクションプラン	1 学内での様々な分野にまたがる研究者による研究会の実施 2 単著、共著の公刊、シリーズ化の実現 3 学会活動の報告会の実施 4 競争的外部資金への応募の増加

■教 育

中期目標	社会にひらかれたコミュニカレッジの創出
目標の具体的な内容	通信教育課程設置による多様な人材の交流を実現と、青陵スタンダード教育の開発。
重点施策	1 学生自身が地域や社会の課題に関わり、解決できる能力を有する人材の育成を可能にする課題解決能力の伸長を図る教育プログラムの開発 2 オンデマンド教材の作成の経験に基づく教育の質的改善 3 デジタル社会に対応できる人材の育成 4 多様な学生間の交流の実現 5 リスキリングのための教育プログラムの開発
アクションプラン	1 2年次の演習の成果を発表する 2 オンデマンド教材のピアレビュー 3 ポータブルスキルの習得を目的とした授業の報告会の実施 4 多様性やインクルージョンに関するワークショップや学びの場を提供する 5 リスキリングのための教育プログラムの開発

■地域貢献・社会連携

中期目標	地域と連携した「地の拠点」の基盤整備
目標の具体的な内容	「知の拠点」としての役割を実践するために、地域と連携した、生涯教育を提供する仕組みの構築する。
重点施策	1 連携事業の可視化と公開 2 授業・履修プログラムに繋がる企業や自治体との連携事業の充実化 3 公開講座の充実 4 リスキリングのための履修プログラムの開発
アクションプラン	1 連携事業の可視化と公開 2 授業・履修プログラムに繋がる企業や自治体との連携事業の拡大 3 公開講座の充実 4 リスキリングのための履修プログラムの開発

iv. 新潟青陵高等学校

■研 究

中期目標	ヒューマニティスクール（至誠）の具現化
目標の具体的な内容	SEIRYO ソーシャルイノベーション（SSI）探究 ＝ 青陵スタンダード教育の具体化～ 青陵学園との一体化 ～
重点施策	1 人間関係づくりの推進（ポータブルスキルの育成） 2 授業づくりの推進（授業力の向上） 3 多様な生徒に対応した親身できめ細やかな支援・サポート体制の在り方 4 地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進の在り方 5 充実した部活動の在り方
アクションプラン	1 ホームルームの活性化（意図的・計画的な実施計画の策定） 2 特別活動（生徒会・専門委員会）の活性化（組織・活動の在り方） 3 授業公開、相互交流、研究授業（ロールモデル）の実施 4 ICT を活用した授業づくり 5 教育支援班による研修（アセスメントなど）・授業の充実 6 探究型テーマ研修の在り方 7 大学・関係機関、外部機関との連携の在り方 8 SDG s など教科横断の学びの実践 9 特色ある魅力的な学校行事の企画・実施 10 スポーツ科学に基づいた部活動の推進

■教 育

中期目標	全日制改革の推進（地域・社会に貢献できる人材の育成）
目標の具体的な内容	全日制改革＝ヒューマニティスクール（至誠）の具体化と推進
重点施策	1 新3コースの充実（エンパワメントコース、キャリアデザインコース、キャリアアドバンスコース） 2 人間関係づくりの推進 3 親身できめ細やかな支援・サポート体制の構築 4 地域探究～体験活動（社会実学体験）の充実 5 部活動改革の推進

アクションプラン	1 3 コース教育課程の充実 2 ホームルームの年間計画の充実（人間関係づくり、人権教育など） 3 問いと振り返りのある授業、ICT 教育の推進 4 特別活動の充実（生徒会、専門委員会、学級活動） 5 UDL（青陵スタンダード）の実施、校内支援体制及びケース会議の充実 6 探究型テーマ研修の実施 7 全日制課程定員の充足 8 全日制課程卒業率の向上 9 全日制課程卒業生の多様な進路実現 10 部活動の充実（重点化、成果向上、参加率 50%）
----------	---

■地域貢献・社会連携

中期目標	社会課題解決力の育成
目標の具体的な内容	地域・社会に貢献できる人材の育成 = コミュニティスクールを目指して ～ 地域（新潟島）教育コーディネーター、地域連携協働担当、社会教育士などの配置 ～
重点施策	1 地域探究～体験活動（社会実学体験）の充実 2 人間関係づくりの推進 3 特別活動（生徒会・専門委員会）の充実 4 学園、大学・短大との連携 5 外部機関との連携・外部施設の活用
アクションプラン	1 3 年間を見通した総合的な探究の時間の実施 2 ホームルームや特別活動を活用した人間関係づくり 3 ボランティア活動の推進（生徒会、ボランティアセンターとの連携） 4 社会連携センター、ボランティアセンターなど学園の各センターとの連携 5 青陵大学・短期大学部との連携強化 6 新潟医療福祉大学、東京農業大学など他大学・専門学校等との連携強化 7 マリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部など外部機関との連携強化 8 新潟市内の各種施設、地域資源の活用 9 学習成果の公表 10 地域創生デザイン作成（青陵プラン）

■2025 年度重点事業

事業	広域通信制課程の設置準備
重点施策	1 社会課題解決力の育成 2 ハイブリッド教育（オンラインと対面）の推進 3 LMSによるオンラインシステムの推進 4 学園、大学・短大との連携 5 外部サポート施設の活用
アクションプラン	1 広報活動の多面的展開と生徒数の確保 2 個に応じたきめ細やかな支援・サポート体制の確立 3 ポータブルスキルの育成 4 インストラクショナルデザインに基づいた授業及びオンデマンド教材の充実 5 ハイブリッド教育（双方向型のコミュニケーション）の推進 6 探究学習（地域資源と地域人材の活用）推進 7 青陵大学・短期大学部及び連携大学との連携強化 8 就労体験・インターンシップの実施 9 対面でのサポート（メンターの活用）の実施 10 探究力、ポータブルスキルを段階的にアップデートする教育環境の設定

v. 新潟青陵こども園

■研 究

中期目標	乳幼児期の学びに即した保育方法・内容の質向上を目指した研修の充実
目標の具体的な内容	「健康」領域からの保育の見直し。 連携研修会の開催と架け橋プログラムの作成。
重点施策	1 学校体育研究会全国大会（新潟大会）で公開保育・協議会を行う。 2 近隣4小学校と幼稚園・こども園・保育園との間で連携研修会を開催し、架け橋プログラムを作成する。
アクションプラン	1 学内での様々な分野にまたがる研究者による研究会の実施 2 単著・共著の公刊、シリーズ化の実現 3 学会活動の報告会の実施 4 競争的外部資金への応募の増加

■教 育

中期目標	乳幼児期の学びに即した保育方法・内容の質向上
目標の具体的な内容	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現。 「シュタイナー教育」に替わる新たな「青陵こども園スタンダード」の構築。
重点施策	1 個別最適な学びでインクルーシブ教育を充実させる。 2 主体的な学びでエージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）を育成する。 3 「サークルタイム」で協働的な学びを実現する。 4 乳幼児期の学びに即した保育方法・内容の質向上を目指す「青陵こども園スタンダード」で深い学びを実現する。
アクションプラン	1 長期・短期指導計画の作成による遊びの最適化 2 「個別の指導計画」作成による指導の個別化 3 子ども発達相談室における年3回の「発達神経専門医相談」の開催 4 園児の意見を取り入れた主体的な園行事の実践 5 折り合いや集団遊びの相談への「サークルタイム」の取入れ 6 乳幼児期の学びに即した保育方法・内容の質向上を目指した事例の蓄積

■教育（新規事業：0歳児からの受入れ）

中期目標	0歳児からの受入れによる収支の安定化
目標の具体的な内容	1歳児から0歳児へと段階的な受入れ
重点施策	1 0・1歳児用に保育室を改修する。 2 職員の勤務体制を整備する。 3 ベテランの保育主幹・看護師を採用する。 4 1歳児から募集する。 5 0歳児を受け入れる。
アクションプラン	1 トイレと調乳室の増設補助金を申請する。 2 0～2歳児の保育について研修する。 3 職員の勤務体制を整備する。 4 1・2歳児の学年別保育計画を作成する。 5 1・2歳児を募集する。

■地域貢献・社会連携

中期目標	社会的にニーズが高まる特別支援教育の提供
目標の具体的な内容	障がい児通所支援事業（在園児の療育施設への通所支援）への参入
重点施策	1 収支の見通しを把握する。 2 保育室を指導訓練室に改修する。 3 担当職員を募集・採用する。 4 通所園児を募集する。
アクションプラン	1 新潟市の手引きや先進事例等からの資料収集と収支見通しの把握